

## 第3A（中）分科会 —教育環境整備に関する課題—

提案主題 ミドルリーダーを機能させるための組織・運営の改善における教頭の役割

司会者	豊後高田市立真玉中学校	安藤 慎一
提言者	豊後高田市立高田中学校	河野 信一
助言者	宇佐市立深見小学校校長	金光 隆生
記録者	豊後高田市立河内中学校	古野 光博

### 1 協議の柱

- ・学校の組織・運営・改善・充実に教頭としてミドルリーダーをどう機能させるか

### 2 協議の実際

- (1) 教務主任や主幹教諭に対しては、
  - ・小規模校では、学級担任をしているケースが多い。学級経営もきちんとやりながら学校全体の校務もこなせる人材を育てなければならない。
  - ・教務主任が校長，教頭より年齢が上であったり，高齢化したりしている中で，その人のモチベーションを維持していくための声かけやコミュニケーションが大事である。
- (2) 各種主任に対しては
  - ・教頭が前面に出てやるのではなく，その提案事項や分掌会議の運営等に関して責任と活躍の場を与えたり，アドバイスをしたりする。
  - ・学校が抱えている課題を共有することによって意識が高くなっていくのではないか。
- (3) 学校運営全般に関しては
  - ・小規模校では，一人ひとりの分掌が多く，分掌会議等があまり持てないので，分掌よりも重点目標やプロジェクトごとの組織で学校運営を行っていく方が機能しやすいし，主任がミドルリーダーとして育ちやすい
  - ・大きな組織になると，学校で時間設定をして分掌会議，学年会議等を行うと持ちやすい。
  - ・パソコンのフォルダやスプレッドシートを使い各主任の事務処理の時間や効率化を図るべきだ。また，パソコン等で見える化（可視化）を図ることにより共通指導事項など全員が把握しやすい。

### 3 指導助言

- ・規模の大きい学校では，生徒指導上の取組も含めて，特に，きちんとした効率的な組織づくりが大切であるし，その組織が常に生きて働くよう教頭としてのコーディネートが重要である。
- ・規模の大小にかかわらず，全職員が学校の重点目標等と結びつけて実践していくために，また，学校の課題を解決していくために共有した意識をもたせることが必要である。その，舵取り役が教頭の仕事として重要である。
- ・学校課題の解決・重点目標の達成に向けては，常に，学力問題，体力問題等自校の課題を，危機意識として，教職員にもたせることも大事である。
- ・各主任に対しては，それぞれの取組の重要性や緊急性などを考え，取組への軽重をもたせて，各任務にあたらせることが大事である。
- ・「最終的には，責任は自分があるので，どんどん思ったことをやって下さい。」といった管理職のスタンスで，ある程度の責任をもたせ，各主任にいろんな取組を積極的に進めさせることが大事であるし，そのことがミドルリーダーを育てることにつながる。